

地方創生で活気のある町に 議会だより

かつうら

No.98

2024.4.30



2. 令和6年度 一般会計予算総額 41 億円超

4. 〈特集!〉OVER TALK 勝浦アップデート

『— 大規模災害を迎え撃つ — 勝浦の防災対策』

8. 〈議案審議〉当初予算 / 補正予算

10. 一般質問

16. 議員の目〈視察報告〉

17. 議長コラム 勝浦想生

18. ぶっちゃけどうなの? 広報モニター会議

19. 追跡討論! 「どうなっとんで? アレコレ決めたその後のハナシ」

編集後記

20. —地域のホシ ガンバル人— かつうらガンバラウズ

『うえた しゅうへい 上田 修平 Uターンし、二足の草鞋で勝浦を盛り上げる』

表紙探訪

令和6年度一般会計予算 総額 41億2900万円

勝浦町介護施設等整備事業

3億6248万円

澤口 ユキ子 (星谷)



高齢者も増加している。介護施設や従事者の環境が充実して、より良いサービスが受けられることは大変ありがたい。主人とともに安心して生活できるようにお願いします。

今までは子供を連れて町外の大きな公園に行っていたが、近場にできるのはよいと思う。令和10年ではなく、もう少し早く子供が小さいうちに完成させて欲しい。

柳田 晃 (生名)



災害時はよってネ市に近いメリットを活かし、産直の農産物を利用できるシステムを作り、炊き出しのためのかまどベンチ、耐震性貯水槽を整備してもらいたい。

西谷 雄幹 (生名)



子どもはぐくみ医療費助成事業

2070万円

酒井 しおり (与川内)



勝浦病院は小児科が週1日しかなく、町外の病院に行かなければいけない。内科での対応や子供用薬の在庫充実などで、いつでも安心して利用できるようにしてほしい。

木造住宅耐震事業

1245万円

石尾 治美 (坂本)



能登半島地震でも多くの倒壊があったので、南海トラフ地震に備えたよい事業と思います。町にしっかり周知を行ってもらい、多くの方が利用して耐震補強が進めばいいですね。

吉田 祐章 (生名)



建設場所は土地が低いため防災機能については限られるのかなと思う。貯水槽、マンホールトイレ等は設置して欲しい。完成後は防災訓練も実施してもらいたい。

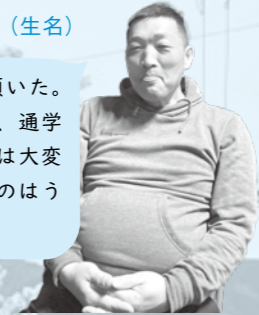
防災機能を有した公園整備計画事業

1280万円

勝浦町高校生等就学費助成事業

1060万円

戸川 貴博 (生名)



主に通学費用に充てさせて頂いた。町外の高校に通っているの、通学費用は必要。この度の給付金は大変ありがたい、また今年もあるのはうれしい。

佐野木 瞳 (棚野)



6ヶ月の無償化はとても助かります。兄弟で入学や修学旅行のタイミングが重なり、大きな負担になるので、多子世帯への負担軽減策があれば嬉しいです。

学校給食費助成事業

990万円

のり面点検業務

1000万円

多田 憲一 (生名)



町内の危険そうな場所を6か所点検してくれるという事で大変ありがたい。鶴林寺線ののり面も危険そうな場所があるので早急に点検して対策をお願いしたい。

星谷橋架け替之事業

3588万円

澤口 實 (星谷)



安全で通行しやすい快適な橋を長年希望していました。ようやく本格的な事業が始まることが決まり、うれしく思います。早期完成に向け大変期待しています。

特定地域づくり事業協同組合事業

672万円

協坂 諒平 (久国)



望んだ仕事以外もやらなければならないこともあるが、いろいろな仕事をやる中で、やりがいのある仕事を見つけるきっかけにしたい。

上野 美子 (坂本)



勝浦町の特産品を全国のみさんに知っていただきたいです。おいしいものを作りPRしていきます。そのための補助金は本当にありがたいです。

阿波かつらブランド化事業

1448万円

恐竜事業

810万円

今山 博子 (中角)



ボンベッドも見つかり、一億三千年前の恐竜の歯や亀の化石が発見されている。これからもたくさんの化石が出土すると思う。私たちも応援していきたい。

高校生議会の開催

6万円

福本 凜 (久国)



議場で議論するなんてなかなか体験できないことだし、高校生目線の意見を提案できるいい機会と思う。もし自分が参加できるなら友達と一緒にやってみたい。

岡田 孝志 (星谷)



試験散布をしたが、効果が無くやり直しをした。まだ完全でないように思う。必ず効果があれば、すぐにでも取り組みたい。消毒作業軽減に期待している。

スマート農業実証事業 (温州みかんドローン防除)

25万円

令和6年度特別会計予算

国民健康保険	6億4263万円
介護保険	9億6949万円
後期高齢者医療	1億2734万円
物産販売	150万円
住宅資金等貸付	39万円

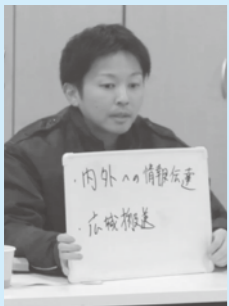
令和6年度企業会計予算 (収益的収入)

勝浦病院事業	8億3427万円
簡易水道事業	1億6422万円
集落排水事業	5153万円

3月ひな会議は、3月1日から25日まで開催し、令和5年度補正予算、令和6年度一般会計予算、特別会計予算、条例改正等を審議し可決しました。また、一般質問に9議員が登壇し、町政に切り込みました。

用語説明
本文内に、上のアイコンがある用語は、欄外にて用語説明をしております。

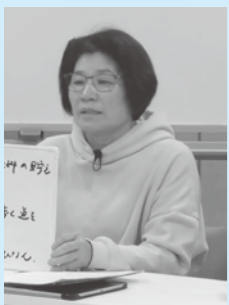
《トークゲスト》
防災関係者



おおたに ひろし
大谷 浩史
救急救命士。日本救急システム株式会社 (JEMS)。



いしくら みえこ
石倉 美恵子
棚野在住。婦人会会長。日本赤十字奉仕団 勝浦支部委員長。



みま ともこ
美馬 友子
棚野在住。退職看護師のネットワーク「地域の人に寄り添いたい」を平成27年に組織し隊長に。かつらぎ町議会議員。

で意見をお聞かせください。能登地震1カ月後に現地入りした町職員の新居さんから。

新居 防災訓練、地域コミュニティが大切。地震が起こってすぐ、どこに避難すれば良いのかが1番重要。能登は、18年前にも地震を経験しているのですが、公民館に地区の人が避難をしてきていた。

杉本 隣組などのコミュニティが大切。命を助けるっていうのは大事なこと。コミュニティをしっかりと、安否確認、初動対応する。働き世代は多くが町外に出て、平日の昼間に発生した時は連絡も取りにくい。

勝浦町に残っている方だけで、初動対応できる体制を確立しておくのが大事である。

新居 1月1日の珠洲市では市役所に20人ぐらいしかいなかった。時間帯によっては初動体制を構築するのは難しい。

美馬 自らの命を守る行動が取れるように訓練を重ねる。棚野地区では、要配慮者への声かけや避難の担当を決め、普段から関わりを持つようにし、地域の中でどこに何人住んでいるかを知っていなければ行動に移せない。

石倉 近隣住民の安全確認と声かけ、耐震化を進める。顔の

見える関係は、自然に声がかかりやすい。声をかけて、一緒に逃げられる体制を作ることが1番だと思っています。

大谷 分散、多様化、BCP策定。救急隊の目線として、家屋倒壊時、医療物品を1か所に保管すると全部使えなくなるので、置く場所を分散させておく。安否確認はネットが使えないリスクを想定し、電話回線や緊急電話、電話が無理だったら、どこで集合するかとかの方法を段階的に決めていく。また、巨大地震による津波や道路状況を考えて、小松島の方に行けない。あらかじめ勝浦病院と連携して、すべての患者を勝浦病院に

搬送することを考えている。能登の発生現場では安否確認にLINEなどを使ったのか。

新居 発生直後は、SNSを使つての安否確認はなかったと思う。近隣住民の方の声かけによる安全確認などのアナログ対応だったと聞いている。

《トークテーマ2》
開設される避難所を長期にわたり安定的に運営するために必要なこと

2つ目のクエスチョン

BCP (事業継続計画)
災害時に特定された重要業務が中断しないこと等、企業を守るための経営戦略。



話しすぎるほど 語り尽くそう 私たちの町のこと

第7回目となる「OVER TALK」のテーマは、「大規模災害を迎え撃つ勝浦の防災対策」ということで、様々な活動に取り組む町民に集まっていた。勝浦町では令和4年7月に防災計画が更新されている。今現在の防災対策で大丈夫なのか、必要なものは何なのかなど話し合っていた。

《トークテーマ1》
防災時の対応について

—— 家屋の耐震化率が70パーセントとされる勝浦町、南海トラフ巨大地震では、震度6強の揺れが想定されている。住宅の耐震化による被害軽減というのが重要になってくる。今一度、課題を整理して対策を講じておく必要がある。それぞれの立場

「OVER TALK(オーバートーク)」は、毎回テーマに沿った住民に集まっていたき一つのテーマについて、話しすぎていただく(≒オーバートークしていただく)、誌面・インターネット動画連動型の企画です。

《テーマ》
——大規模災害を迎え撃つ——
「勝浦の防災対策」

勝浦町においては、南海トラフ地震被害想定として震度6弱から6強の揺れに見舞われ、勝浦川沿いの液化危険度が極めて高い。建物被害は全壊・焼失、420棟、半壊760棟、死者数20、30人負傷者数120、190人と想定されている。

災害時の被害を最小化する「減災」の考え方を防災の基本とし、被災したとしても人命

《プロローグ》
地域の生命と財産は地域で守る

が失われないことを最重視し、また経済的被害ができるだけ少なくなるよう、様々な対策を組み合わせて災害に備える必要がある。

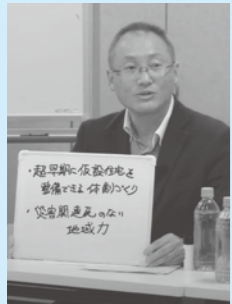
能登半島地震などの大規模災害を教訓とし防災対策の一層の充実強化が求められている。今回は、住民・行政・関係機関・団体等がそれぞれがどのようなことができるのか話し合っていた。

誌面と動画の連動企画

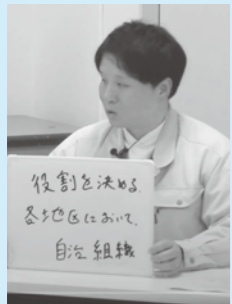


このコーナーは、誌面と動画の連動企画です。勝浦町議会ホームページまたはYouTubeにて動画を見ることができます。





すぎもと たくし 杉本 卓司
坂本出身で生名在住。
25年以上前から、南海トラフ巨大地震、津波の防災対策について仕事で関わり、徳島大学で研究活動。



にいりょうすけ 新居 亮介
今山出身で石原在住。
勝浦町役場上下水道課勤務。能登半島地震支援に町職員代表として派遣された。



《進行役》
おきのしんかい 荻野 慎諧
横瀬在住。
化石の研究、古生物学者として恐竜を生かしたまちづくりを手がけている。

——最後に、今回の企画に参加した感想をお願いしたい。

大谷 いろんな方の話が聞けて勉強になった。役場や病院ともしっかり防災に関するコミュニケーションを取っていかねばならないと思う。

石倉 赤十字や婦人会が中心となって、いろんな団体の人たちと防災訓練や、学習会を開催する形が見えてきた。

いと、いざという時に困る。病院で治療が必要な場合、ドクターヘリ、救急隊、役場と病院とが連携して役割を決めておかないと、いざという時に素早い対応ができない。

美馬 勝浦町には16の自主防災隊がある。16の防災隊が同じように動けるようにするのが行政の仕事。困り事をなくすために、避難所運営や防災活動には作る事が大事。

杉本 沿岸市町村は、1000年に1度の津波を迎えた場合、大勢の方が生活する場を失い内陸の地域に緊急避難しなければならぬ。そのための受け皿が必要で、解決のために徳島県の広域連携での避難計画の中に、勝浦町に大規模な防災公園、防災広場を作り、応急仮設住宅を速やかに設けられるような体制を作ることが大事。

新居 能登では各地区において、総区長さんを中心に、給水担当、炊き出し担当、物資担当と各リーダーを決めていた。防災訓練とか、普段の状況で役割を先に決めておくのが大事だと感じた。

です。大規模災害時には避難所を開設しますが、地理的条件や災害規模、避難施設の環境などによって様々な課題が想定されます。開設される避難所を長期にわたり安定的に運営するためには、必要な考えをお聞かせください。



杉本 勝浦町の場合、コミュニティの力が他の市町村に比べるとかなり高い。南海トラフ巨大地震さえも、千載一遇の地理的好条件がある。町を根本から良くするタイミングだと思う。議会にも通じる会であり、行政にも私の考えが少しでも響いたら良いと思う。

新居 派遣された経験を自分だけに留めておくのではなく、防災に生かしていくことが大事だと思う。また派遣された経験

美馬 まだまだ地域力は捨てたものでないと思った。それぞれ意識が高い人が集まったの会であった。もっと防災に対する意識を高めて地域に還元していきたい。

《トークテーマ3》
孤立集落の発生など、孤立への対応や対策

——平日の昼間の発災となる

大谷 一番気になるのは健康。持病を持たれてる方が環境の変化により、いきなり悪くなった時の対応や、陸路が途絶えた場合の医療などの要請方法についてコミュニケーションをしておくことが重要。

新居 水道管の老朽化が進んでいる。地震が発生したら、断水が起こる。井戸を把握するのはすごく重要だ。

石倉 被災した時に、水道がストップしてしまう可能性が高い。活用できる井戸を各地区で把握しておくことが大事。日常生活の中に防災意識を入れて、非常持ち出し袋の「フェーズフリー」をしている。各家庭での毎年の確認が必要で、婦人会でも活動を呼びかけていきたい。

今回は、防災関係の方々に、様々な課題について熱く語っていただいた。年長に起こった能登半島地震後のこともあり、待ったなしの対応が求められている。今回の議論を議会として受け止め、行政に提言をしていく。いつ大きな災害が来ても、1人の命

《議員考察》
アナログだけではなくITの活用も重要
オーバートークを終え、議員が感じたこと

もなくさないようしっかりした準備や訓練などを進めていかなければならない。

これからの課題として、現在は、発災時にアナログ対応が主になっているが、ITを活用した防災計画を進めることが重要ではないか。議会として引き続き、住民の命と財産を守るために行動していきたい。

談を報告できたのも良かった。

——今回のテーマは大規模災害を迎え撃つ勝浦の防災対策。アナログでどうやって対応するのが重要であり、まだ住民の

力が凄く残っている地域としては減災が可能である。様々な課題が山積しているが、ある程度の未来が見えてくる会であった。

石倉 避難所と公共施設の案内表示が必要。総務防災課が講習をしてくれたマイタイムラインなどの学習も大切。携帯電話が通じない場合があるので、家族内でルールを決めておく。

大谷 孤立してライフラインが断たれた場合の対策が必要。避難所と避難所、避難所と役場の連絡をしっかりと作っておかないか。

杉本 被災後もすぐ通れる命の道が県道徳島上那賀線。中角の樋門を閉じてしまつては非常に危険。勝浦町の中で完結できるコンパクトシティ化計画など、まちづくりも同時に進めていく必要がある。

新居 コミュニティ。孤立しても県道は通れるようにすること。そして災害協定等が重要。



当初予算

議案審議

安心して住み続けられるまちづくりを

安心して住み続けられるまちづくりのために、社会インフラの整備が急務となっている。令和6年度は、星谷橋の架け替え、防災機能を有した公園整備計画事業、介護施設等整備事業等が取り組まれる。また、新規事業として本格的な芸術に触れる公共ホール音楽活性化事業が実施される。昨年度より導入された阿波かつら情報アプリを活用した、より一層の情報配信が求められる。町民がもっと居心地がいいと感じられるまちづくりの推進に期待している。

防災・まちづくり

ふるさと納税 ベスト5は

ふるさと納税事業、5年度の実績と商品のベスト5は。

寺尾企画交流課長

寄付金が5128万1千円。人気商品は、肉、みかん、お菓子などの加工品、ペットボトルのお茶、調味料が上位。



勝浦の魅力発信

阿波かつら未来応援事業

300万円

勝浦町内で起業や、既存事業に加え新たな事業展開を始めようとする事業者を対象に、ふるさと納税を活用した資金調達による支援を実施する。

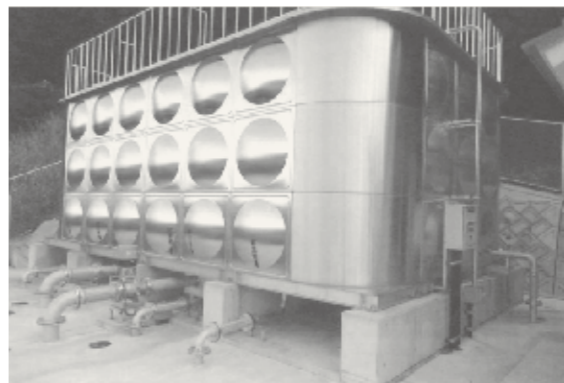
杉の子基金のあとの事業としてクラウドファンディングを利用するのはハードルが高く、昨年度は1件も採択されていない。今年度も同じ内容で実施するのか。

企画交流課長

昨年度と同様の募集要項としているが、今後、内容の見直しと検討はしていく。

山西地区の水道改良工事 完了時期は

西岡・山田地区水道改良事業の完成予定は。大上上下水道課長 完成予定は令和8年度。



災害に強い貯水タンク

防災監採用 早期の対応を

災害対策事業で新たな防災監採用の人員費が計上されている。

教育・子育て

。早期の対応をお願いしたいが現在の状況は。

中瀬総務防災課長

自衛隊に募集をかけている。新年度面接を実施し、早期採用ができるよう努めたい。

給付型の奨学金導入を

若者を呼び戻す、引き止めるためにも、給付型の奨学金の導入を。

石木教育委員会事務局長

奨学金制度の変更が予定されており、国や県の制度対象外への支援や給付型について検討していきたい。

公共ホール音楽活性化事業

80万円

子供たちを含めた町民に音楽のすばらしさを知ってもらうため、アーティストを招きコンサートを開催する。

うことで、世帯に一律に支援するという方法をとった。

医療・福祉

物価高騰対応重点支援給付金事業

1821万円

今回の給付金は令和4年度の収入に対する補助金である。令和4年度は収入があつて令和5年度に仕事がなく生活が困窮している人はどうなるのか。

後藤住民課長

令和5年に収入が減少した方の場合、令和6年度住民税で非課税世帯に該当した場合は認定を踏まえて支給が行われると聞いている。

医療・福祉

病院事業会計

目標値が下がっているが

新病院も外構工事が終わりが本格稼働の年だ。昨年度より入院・通院の目標値が下がっている理由は。また、医師確保は。

笠木勝浦病院事務局長

病院改革プランで目標値を設定。新病院では病床数の削減やコロナ禍を経験し、現実的な目標設定としている。医師確保は、大学や県と連携し働きかける。

接遇が良くなったと聞かすが、町外の病院で取り組んでいる無料送迎など、もっと患者を増やす、きめ細かい施策に取り組んでいる。



頼りになるこの笑顔!

野上町長

「地域医療を守る会」では、病院施設や健康面で盛り上げる心強い取り組みがある。さらに、昨年度に引き続き「病院フェスティバル」の開催も願っている。

勝浦病院事務局長

今後も接遇等の研修を続け、提案のあった通院の便宜についてなど、広く検討したい。

勝浦病院は勝浦町、上勝町にとっても大切な病院。病床数がこれ以上減ることなく、通院、入院患者が増えるよう、具体的な施策を町全体で取り組む必要があるのではないかと。



優しさに癒されて

正算 補算

議案審議

防災・まちづくり

勝浦町公の施設指定管理者

前回の募集から指定管理費が変更になった理由は。

寺尾企画交流課長

電気代の高騰などの見込みがきづらいつい事で電気代を町の負担に変更した。

勝浦町世帯応援商品券配布事業

1世帯1万円 2570万円

令和5年に同じような商品券配布事業を1人30000円で行っているが今回1世帯1万円となった理由は。

企画交流課長

前回は世帯に幅広く支援するという形であった。今回は限られた予算の中なるべく平等にとい

新しい風 人 事 人

新居 福夫 今山	山口 和紀 宣坂 本
伊丹 眞悟 横瀬	麻植 雅昭 中角

選挙管理委員 (敬称略)

一般質問とは、議員個人が町長などの執行部に対して執行状況や将来に対する考え方などの報告や説明を求め、町が町民のために適切な町政運営を進めているかを確認する場。3月・7月・11月におこなっています。(議員名あみかけ項目は記事掲載あり)

防災・まちづくり	
星谷橋	長尾 玉置
災害対策	井出 玉置 花房 福井 美馬
ごみ処理	井出 瀬戸
住宅耐震化	瀬戸
交通弱者対策	瀬戸
沼江バイパス	瀬戸
ふれあいの里体育館補修	内谷
横瀬地区宅地造成	筈
教育・子育て	
地域と高校の協働	花房
学童保育	美馬
図書館の環境設備	筈
観光・にぎわい	
町内施設整備	長尾 筈
道の駅周辺整備	花房
恐竜	福井
農業振興	
農作物のブランド化	長尾
漬物加工者への助成	井出
熟成みかん	井出 内谷
医療・福祉	
勝浦病院	福井
高齢者対策	美馬
女性のがん検診	美馬
その他	
合併浄化槽普及の取組	長尾
相続登記の義務化	花房
給付金の対応	福井
阿波かつうら情報アプリ	内谷
町政課題への対応	筈



ながお 隆資 議員

**合併浄化槽100%普及を
新たな周知方法で**

勝浦町汚水処理構想では令和17年度までに合併浄化槽普及率100%をめざす予定だ。令和6年度の設置目標と予算額はいくらか。
大上 上下水道課長

目標件数は、令和5年度の倍の20件。予算額も932万円から1852万円に増額している。

現在の合併浄化槽の普及率は何か。

上下水道課長

普及率は、速報値で約63%である。—— 予定している20件を超えた場合はどうなるのか。

上下水道課長

県担当課に問い合わせた結果、補助金の国費、県費の枠はまだ空いているとのことなので、予算限度額に達した場合は必要ならば補正予算を検討する。

—— 合併浄化槽100%普及をめざし、新たな周知方法は考えているか。

上下水道課長

町広報誌、ホームページにて新事業を中心に紹介している。また、合併浄化槽への転換を推進するため、徳島県環境技術センターと連携し、単独槽検査結果に啓発パンフレットを同封している。

星谷橋北詰丁字路の交通安全対策は

星谷運動公園に出入りする丁字路交差点には1基のカーブミラーしかない。遊具もリニューアルされ、町内外から来園者が増えると予想される。標識、白線を設置して、事故防止の安全対策をしてほしい。

石木教育委員会事務局長

運動公園利用者も増えており、交通安全対策は大変

重要。警察、

関係機関と確

認中であり、

対策を検討し

たい。



危険がいっぱい



い で み ち こ 議員

**漬物出荷者への助成は
オレンジファクトリー利用者に
限らず助成を**

法改正で漬物製造の「営業許可」には、加工施設整備が必要になる。「よってネ市」の漬物出荷者が、5月いっぱいに出荷できなくなるため困っている。実情はどうか。

上村 農業振興課長

「よってネ市」の昨年度の漬物出荷者は42人。6月以降も出荷する人は2人から5人とのことである。

—— 秋田県横手市では、補助率10分の4以内、上限金額40万円の助成をしている。県内ではどうか。勝浦でも実施を。

農業振興課長

6次産業化として吉野川市と阿波市では補助率2分の1以内、上限金額50万円

の助成をしている。勝浦町は、オレンジファクトリー利用者限定で同様の助成をしている。

—— オレンジファクトリー利用者に限らずに、助成をするべきではないか。

野上 町長

42人の出荷者にアンケートを取り、対応を考えたい。

**体育館への空調設備と
インスタントハウス設置を**

災害が起きれば、冬は凍てつく体育館での避難となる。15分で組み立てができ、天井や扉、窓を付け遮音性や光環境調整可能な安価なダンボールハウスを赤ちゃんや子どもたち、また女性のプライバシー保護のために導入したらどうか。

中瀬 総務防災課長

冬場の防寒やプライバシーが確保されないことによるストレスが課題である。対策上、有効であると考え。体調の悪い方、妊産婦の方の使用に向けて整備を検討する。



早い、安い、快適



たまお き まも る 議員

**新・星谷橋 安全面は
接続角度の見直しが必要では**

県道新浜勝浦線の交差点は、新しい橋からまっすぐ直角に接続するのが安全ではないか。また、橋梁部分は現在の堤防から3mも上がり、県道への接続道路が急勾配となり危険だ。

海川 建設課長

食い違い交差は危険なので、現交差点から40m以上離す必要がある。また、堤防から交差点にかけての町道は緩やかにすると考えている。

**災害時における
障がい者等の救済対応は**

要援護者の見守り活動は、民生委員や防災士等との情報共有が必要でないか。

長友 福祉課長

支援者台帳に登載し、個別避難計画を関係機関に提供している。

—— ストーマ用品の災害時の備蓄と一時管理はできるか。

中瀬 総務防災課長

今回上程している災害救助基金条例などで対応可能である。

—— 災害時における身体障がい者・高齢者・妊婦等救済対応の状況は。

総務 防災課長

福祉避難所は町内で1カ所、喜楽苑を指定している。

野上 町長

福祉避難所がどれだけ必要か調査する。マイタイムライン作成の推進とともに、地域で要援護者を助ける取り組みが必要だ。

災害時における身体障がい者・高齢者等救済対応について	2178人
高齢者	351人
要介護認定者	135人
重度身体障がい者	283人
身体障がい者	283人
透析対象者	14人
重度疾病患者	52人
妊婦	6人
人工膀胱・人工肛門装具者	26人



はなふさ かついち 議員
花房 勝一

**南海トラフ大地震に備え
水道施設の災害対策を
大地震発生時の被害想定は**

——南海トラフ地震における本町の水道施設の耐震化率、被害想定は。

大上上下水道課長

耐震化率は24・2%。被害想定は、発災直後は97%、1週間後断水率63%、1か月後断水率12%、断水人口550人である。

——町内の井戸の場所、数などを把握しているか。

上下水道課長

——その井戸を調査して飲料水に使えるかどうかも含めて、防災マップに載せてはどうか。

上下水道課長

総務防災課と連携して検討したい。

道の駅周辺整備の進捗は

——道の駅周辺に整備される予定の、防災機能を有した公園整備の進捗状況は。

中瀬総務防災課長

令和6年度予算で約1200万円を計上し、予定地の調査や検討委員会の運営支援、基本構想等の作成をする。完成予定は令和10年である。

——この公園予定地の生名バイパス北側は、建物を建てられないのか。

上村農業振興課長

生名バイパス北側は「農用地区域内農地」いわゆる青地である。また、第1種農地であり、原則転用は不許可となっている。

——道の駅周辺は令和10年に公園も整備され、商業施設や企業誘致としての値打ちがある。前もって対応できないか。

野上町長

農地を守っていくのは必要。いつまでも放棄地をおいておくのも懸念はある。今後どうするかという考えは、考えていかなければと思っている。



井戸を使った給水訓練



なほいち 議員
瀬戸 直

**木造住宅の減災化対策を
古い住宅への耐震化指導は**

——本町の木造住宅の耐震診断状況は。

海川建設課長

累計として診断済みが250戸で、46戸の耐震工事が完了している。

——耐震済みの家はどのくらいの震度に耐えられるのか。

建設課長

震度6強から7程度の地震に対しては、倒壊、崩壊しないことになっている。

——何年前に建った家が耐震基準を満たしているか。

建設課長

昭和56年6月1日以降の住宅については、耐震基準を満たしている。

——耐震工事ができない位の古い住宅はどう指導するのか。

建設課長

古い住宅であっても耐震工事は可能であるが、改修費用が増加傾向である。改修工事を望まない場合、費用負担が少く、短期間で施工ができる「耐震シェルター」や「耐震ベッド」の設置、「住み替え支援」といったメニューもある。

——住宅減災化対策が令和5年に新規事業として始まったが内容は。

建設課長

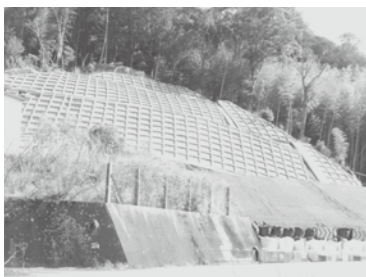
窓ガラスの飛散防止や家具の固定、感震ブレイカーの設置など、住宅の安全性を向上させる事業で高齢者等を対象者としている。

沼江バイパスの現状は

——沼江バイパスの山腹崩壊の現状と今後の住民説明はどうなっているか。

建設課長

崩落箇所の調査を夏頃まで継続する必要があり、その後、工事方法を決定して、説明会を開催する予定と聞いている。



早う、どなんぞして



ふくい 議員
福井 裕美

**恐竜事業の長期ビジョンは
勝浦町を盛り上げる資源として
体制整備を**

——新たに恐竜の化石が発見され、勝浦町を盛り上げる起爆剤となると考える。今後の恐竜事業の長期的なビジョンは。

石木教育委員会事務局長

夏の恐竜フェスティバルは、恐竜化石発見から30年目の節目の年となるので、内容を協議し検討したい。また、10月15日の『化石の日』に講演会を企画。恐竜を活かしたふるさと学習にも可能な限り積極的に取り組み、その動きを生涯学習にもつなげたい。各課とも連携を図りながら、令和7年度以降の取り組みを考えていきたい。

——新年度からの恐竜事業の体制は。

教育委員会事務局長

担当職員と地域おこし協力隊員、企画交流課など関係課との横断的な体制で事業を推進する。人数的に令和5年度より1人減るが、連携を深めて可能な事業に取り組んでいく。

勝浦病院の面会制限解除は

——勝浦病院の面会制限はいつまでか。

笠木勝浦病院事務局長

現在は面会禁止にしているが、一部、医師の許可があれば、面会は可能である。いつまで面会制限をするかは未定だ。

——面会制限の不利益を認識しているか。

勝浦病院事務局長

患者さんとご家族が面会で過ごす時間は、とても貴重な時間であると認識している。介助をご家族にしていたくことで、病院スタッフの負担も軽減できる。しかし、面会をフリーにするメリットよりも、院内感染の防止に重きをおくため、現状のまま、制限付きの面会とする。



これが町の宝だ

動画で一般質問を見る

一般質問の全編を動画投稿サイトYouTubeにて閲覧いただけます。



<https://www.town.katsuura.lg.jp/gikai/chukei/>

議会広報バックナンバー

過去に発行した勝浦町議会広報をインターネットで閲覧することができます。



<https://www.town.katsuura.lg.jp/gikai/dayori/>



**災害派遣から学んだことは
活動報告を受けて
災害計画の見直しは**

議員 能登半島地震の被災地支援として町からは、職員やボランティア、介護職員が派遣された。活動報告を受け、町としての課題や今後見直すべき計画はあるのか。

中瀬 総務防災課長

地域防災計画や避難所マニュアル、避難所の環境整備の作成について、女性参画を進めていきたい。また、職員の初動マニュアルの見直しを検討したい。

震度6強の地震が発生すれば、1200人から1700人の避難者が想定されている。プライバシーの確保ができるのか。備蓄の追加予定は。

総務防災課長

生名の備蓄倉庫に間仕切りパーテ-

ションが35、テントが50、段ボールベツトが30準備してある。備蓄は進めたい。妊婦や乳幼児が避難できる環境が整っている保育園を避難所に利用できないか。

長友 福祉課長

民間施設なので、セキュリティ面も併せて協議する必要がある。

災害時の断水を想定して、町民に供給できる水の量はいくらか。

大上 上下水道課長

緊急遮断弁が設置されている配水池が3カ所あり、240トンの飲料水を確保している。17日間は全町民に3リットルの水が配れる想定。

女性のがん検診サポートを

子宮がん健診時に、オプション検査(5000円程度)をしているHPV検査の費用助成はできないか。この検査を追加することで早期発見の確率が高まる。

福祉課長

令和6年2月に子宮頸がん検診にHPV検査が含まれた。県の体制が整うまで待つてほしい。



プライバシー確保を



**災害発生時の
勝浦町アプリの活用方法は
衛星通信設備も含め検討を**

議員 安宏 中瀬 総務防災課長

議員 安宏 中瀬 総務防災課長
3月21日時点の登録者は606人で、アプリ459人、LINE136人、メール11人となっている。令和7年度末までに1350人を最低目標と考えている。

大災害発生時にアプリでの避難所情報、災害状況の配信や報告受領、復旧情報などの配信計画はあるか。

総務防災課長

支援物資の情報等の配信を想定している。質問にあった情報配信は所管課も含めて検討する。

能登半島地震のように通信網が途

絶えてしまうことも想定される。スターリンクのような衛星通信設備の配備を検討してはどうか。

総務防災課長

通信手段の確保は非常に重要と考えており、まずは災害対策本部での準備について調査研究したい。一方通行ではあるが、本町には防災行政無線がある。

体育館の天井塗装

3月下旬で未実施の理由は

ふれあいの里さかもと体育館の天井塗装、電球交換が予定されているが、3月下旬で未実施になっている理由は。

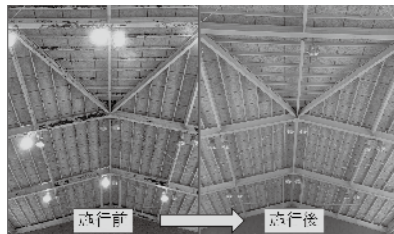
石木 教育委員会事務局長

平成27年度に実施した天井塗装と電球交換の情報収集に時間がかかり、施工内容の検討に時間を要してしまっただ。

施工内容はどのようになるか。

教育委員会事務局長

天井全体の梁について、塗装のはがれが著しい部分のケレン作業(錆・塗膜落とし)を行いながら、設置した足場を使用して7個の電球交換も行う。その後、令和6年度の社会体育費事業予算で、防錆塗装を施す。



見えたなあ



**人口減少に対する
組織体制の展望は
実情に合わせて見直しを**

議員 一穂 野上 町長

議員 一穂 野上 町長
26年後の2050年には、町人口が半減する予測が出ている。人口が減っても、社会サービスやインフラは維持していかなければならないが、労働人口が減少する中で役場機能を果たすためには、少数精鋭の職員が必要である。町長の考える組織の展望は。

野上 町長

最近、公務員の応募が少なくなってきており、優秀な人材確保が難しくなっている。人口に比例した人数が良いとは思わないが、DX、AIの活用も踏まえて住民ニーズに対応できる体制を考えていきたい。

事業の中には、当初の目的と合わ

なくなってきたものがある。また、人口減少に合わせて、痛みを伴うが英断を持って見直す必要があると思うが見解は。

町長

大きな判断が必要な時期に来ていると思う。経費や効果、職員体制を考慮して判断していく。

宅地購入

補助金増額の検討を

4区画の内2区画が販売できたが、販売方法と購入者の住所は。

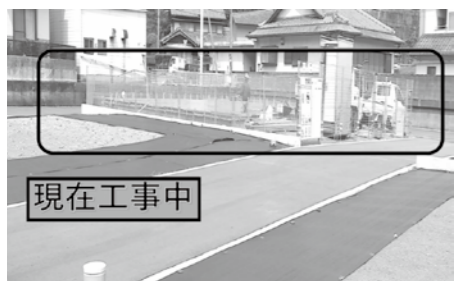
海川 建設課長

購入者は2件とも町外の方で、町に直接申し込みがあった。

建築価格が4割以上も高騰していることが、購入希望者が二の足を踏む要因になっている。補助金の増額が必要では。

町長

この事業は令和7年度までの総合計画に基づいた政策であるが、今後の法改正を見据え考えたい。



もっと賑わってほしい

動画で一般質問を見る

一般質問の全編を動画投稿サイトYouTubeにて閲覧いただけます。



<https://www.town.katsuura.lg.jp/gikai/chukei/>

議会広報バックナンバー

過去に発行した勝浦町議会広報をインターネットで閲覧することができます。



<https://www.town.katsuura.lg.jp/gikai/dayori/>

議員の目

視察報告

地域資源を生かしたまちづくり 高知県に学ぶ、地域の課題解決方法

2月初旬、高知県梼原町と日高村へ伺い、視察研修を実施。勝浦町と立地や条件が似ている日高村や空き家対策の先進地域である梼原町の事例を学び、これからの勝浦町に必要となる取り組みを学んだ。

2月6、7日に高知県梼原町、日高村を訪問。梼原町は建築家の隈研吾氏が手がけた建造物が多くあり、「雲の上の町」とのキャッチコピーでまちづくりを推進して



いる。「移住・定住」「地域コミュニティの醸成」「有害鳥獣対策」「教育（小・中・高の連携）」の4点について学んだ。

日高村は県都から16km、人口4800人ほどで勝浦町とよく似ている。地域資源を生かしたまちづくりや「村まるごとデジタル化」事業について学んだ。

梼原町の「空き家対策」について、空家所有者から10〜12年の契約で借り上げ、改修工事を（国2分の1・県4分の1・町4分の1の負担割合）実施した上で、希望者に月額2万5千円で貸し出している。町負担分は契約期間の家賃収入で返済可能であり、実質町負担0（ゼロ）で空き家の有効活用が図られている。

また、町との契約なので物件所有者も安心

感があり、借主としても安価な家賃設定と水回りの改修や耐震化による快適性や安全性が魅力になっている。

勝浦町で事業を実現するためには、徳島県での制度設計が必要となる。民間事業者や周辺市町村を巻き込んだ推進体制の構築とともに、国や県への要望活動に取り組んでいきたい。



高知県日高村「日高わの会」での研修風景

議会広報常任委員会 先進地視察

令和6年1月25、26日に広報コンクール上位入賞議会の埼玉県寄居町と小川町で、編集日程や取り組み内容を学んだ。

どちらの委員会も、写真やイラスト使用での伝えやすさのノウハウを持っており、見やすい誌面構成がされている。広報の質向上には個々の議員としてのレベルアップも必要であり、12月に発行する100号に向けて、計画的な改革の必要性を感じた。



寄居町に続け めざせ1位!

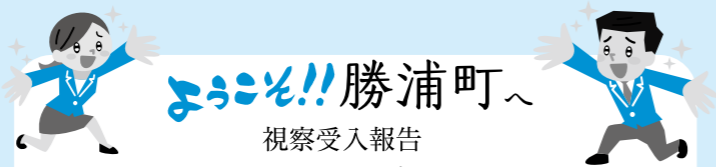
町議会広報5年連続入賞!



全国町村議会議長会が主催する、第38回広報コンクールにて、「議会だよりかつうら95号」が第7位優良賞をいただき、5年連続入賞を果たしました。YouTube動画連

動の特集企画「OVER TALK — かつうらアツプデート —」など、多くの町民が登場する誌面が評価され、このような賞をいただくことができました。

日頃より議会活動や取材にご協力いただいているみなさまに感謝申し上げます。



ようこそ!! 勝浦町へ

視察受入報告

- 2月13日 鳥取県日吉津村議会

日吉津村議会広報広聴常任委員会が来町されました。広報活動や議会だよりの編集、広報誌作成費用や住民モニター制度等について活発な議論が交わされました。



議長コラム 想生 勝浦

昨春から市内の高校に通う息子の送迎をする機会がありますが、市内方面に通勤しているご近所さんも数人いる中で、勝浦町全体ではそのようなドライバーがどれほどいるのか。「ライドシェア」が一部地域で解禁されたニュースを聞かされた時に、空いている席に息子を乗せてもらえたらと何度も思ってみたりします。

勝浦町では以前より高校生の通学方法確保が課題としてありますが、将来的な路線バス撤退を考えると、特区制度や規制緩和、先進技術の利活用による、未来の交通体系の青写真を描く時期にきています。今を生きる私たちみんなが知恵を出し合って考えていきたいと思います。



追跡討論!

どうなっとなんで?

アレコレ決めたその後のハナシ



きれいに植えられたみかんの苗木

町の産業を守るために…

2年経った現状は…

一次募集に応募がなく、二次募集の応募者で抽選し、町内の農業者が2区画を借り受けました。今年3月に全面に苗木を植え付け、今後の有効活用を期待しています。

(令和4年 ひな会議)

問 どうなっとなんで? パイロット園地
答 沼江パイロット園地の利活用について、区画割と応募要件は。(瀬戸)

問 2区画で各6000㎡あまり。一次募集は新規就農者、応募がなければ町内の規模拡大希望者に対して二次募集を行う。
答 2区画で各6000㎡あまり。一次募集は新規就農者、応募がなければ町内の規模拡大希望者に対して二次募集を行う。



安心できない通学路

まだまだ…

3年経った現状は…

令和3年度に実施した「合点検」の結果として、路面表示や道路脇水路への転落防止柵などの安全対策を実施した。歩道整備については、「中角工区」の進捗状況などを勘案し検討していく。

(令和2年 みかん会議)

問 県道上那賀線「横瀬橋東側」、何回も質問しているが進展はあるのか。(節)

問 改良について毎年県に要望を出している。早期に道筋をつけたい。中角工区が終われば次は横瀬橋東側で
答 改良について毎年県に要望を出している。早期に道筋をつけたい。中角工区が終われば次は横瀬橋東側で



あとへ続け!

これからの活躍に…

3年経った現状は…

期待とともに発足。令和5年12月1日、阿波かつうらウィークス協同組合事業開始。令和6年4月1日、派遣開始。

(令和2年 みかん会議)

問 国が推奨している特定地域づくり事業を、早急に勝浦町でも取り組んだらどうか。(井出)

問 特定地域づくり事業
答 アグリサポート事業を見直して、勝浦町の需要に合うように前向きに取り組む。

ぶっちゃけどうなの? 議会広報



3月29日に役場3階の議場に集まっていただきモニター会議を開催しました。広報に対しての意見や感想をいただきましたので、今後の紙面づくりに生かしていきます。

中高生に興味を持ってもらうなら子どもにもわかるような言葉で

文章が長いと読まないが、議会広報は簡潔な文章でわかりやすい。

表紙の写真は9割が子ども。いろんな世代を載せてほしい。

いろんな人に議会広報を読んでもらいたい。

新年のあいさつ・編集後記が前向きな文章でいい。

モニターになってから議会広報を読み始めた。よくわかって勉強になった。

読むまでわからなかった議員の思いがわかる。

青色は寒色で黒との差があまりなくメリハリがない。

令和6年度の広報モニター決定!



今年度の議会広報モニターは次のみなさまにご協力いただきます。

山内瑠実	勢田勝俊	高田薫	柿原孝子	西田直美	山田敏信	北谷誠司	谷添美津子	仁木博子	山本秀樹
坂本	与川内	横瀬	中山	棚野	久国	星谷	今山	沼江	沼江

(敬称略)

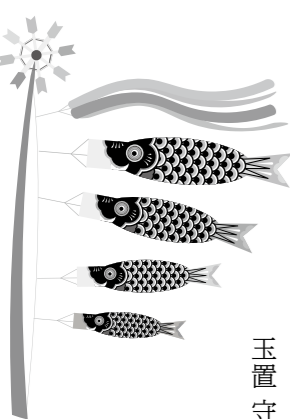
編集後記

今年の元旦に能登半島地震が発生し、震災についての関心が高まっています。本町においても南海トラフ巨大地震の危険が迫っています。今回の議会広報でも震災関連についての一般質問やオパートークを掲載しています。家族や親しい人たちと話し合いができ、少しでも災害についての備えや認識が高まっていればありがたいと思います。

私自身も障がい者として、災害時の弱者対策の重要性を痛感しています。町の施策としても、もっと弱者にやさしい対応が求められます。

マイタイムラインの作成、確認や避難所運営など、実践に対応した訓練が実施されるように議会でも議論していきたいです。

玉置守



KATSUURA

地域のホシ ガンバル人

GAMB★ROUS

かつらガンバロウス



うえた しゅうへい
上田 修平

1992年生 勝浦町出身

阿波かつらワークス協同組合 事務局長
みかん・水稻農家
農事組合法人 勝浦アグリネット 理事

高校卒業後、県外の大学に進学し、卒業後も県外にて営業職として働く。2021年に勝浦町へUターンし、

1年間かんきつアカデミーにて学ぶ。現在は両親とともにみかんと米の生産。農事組合法人勝浦アグリネットにて農作業の請負サービスをしながら、阿波かつらワークス協同組合の事務局長に就任。

地域でガンバル人（地域のホシ）は、活動こそのおの各々ですが、「地域を盛り上げる」というアツい想いは共通。そんな共通の想いを持つ人はみんな「かつらガンバロウス」の一員です。



阿波かつらワークスの看板と事務所

特定地域づくり事業協同組合制度

地域人口の急減に直面している地域において、農林水産業、商工業等の地域産業の担い手を確保するための特定地域づくり事業を行う事業協同組合に対して財政的、制度的な支援を行っています。



★ガンバリポイント

まだまだ農家として技術も知識も未熟ですが、より良い作物を生産できるように日々の管理作業を自分に言い訳のないよう丁寧に行うことを心がけています。また農業だけではなく、勝浦町の発展に寄与できればと思い、特定地域づくり事業を行うことにしました。様々な方の支えのおかげで、「阿波かつらワークス協同組合」を設立し、この春から事業を本格的にスタートできるようになりました。

★これからガンバルこと

農業に関して、日々勉強の毎日なので早く一人前と言われるように知識や技術を身につけたいです。また横の繋がりも強くしていきたいと思っています。阿波かつらワークス協同組合はスタートできましたが、ここからが本番だと思うので、目標である担い手不足の解決に向けて取り組んでいきます。今はまだまだですが、自分が勝浦町に帰ってきたことに意味を持たせられるように、仕事を展開させていけたらと思っています。



表紙写真募集!

議会広報委員会では、みなさまからの表紙写真を募集しております。テーマは「町民の笑顔」! 詳細は下記 URL または QR コードをチェック!



<https://formok.com/f/1chm9gnl/>

表紙探訪

今号の表紙はこんな人



今回の表紙は、4月初旬にみかん保育園で開催された「桜まつり」に伺いました。

毎年、新1年生が招待されますが、園児服を脱いだら立派なお兄さん、お姉さんに。咲き誇る桜の木の下で、手作りのお弁当を前に「喜色満面」舌鼓を打っている様子です。